

第51回指導と評価大学講座

教室でできる特別支援教育

名城大学 曾山和彦

2009.7.30

気になる子が気にならない学級1

～秋田県A小学校・教師がロールモデルを見せる～

- 教師が、気になる子の「気にならない点」を見つけ、「褒める・勇気づける・認める」働きかけをしている
- 教師が、気になる子の「気になる点」は、「非言語・対決アイメッセージ・確認」による働きかけをしている



教師をモデルにして、「ミニ先生」が教室にあふれている。だから、学級の雰囲気があたたかい

ここにも、「秋田に学べ」がある

気になる子が気にならない学級2

～三重県いなべ市立山郷小・授業づくり～

授業をご覧になりましたか？(2009.2月 NHKクローズアップ現代にて放映)

- 学習規律・ルーティンワーク
- リズムとテンポ
- 1指示1動作



気になる子が生き生きと取り組める授業は周囲の子どもにとって、さらに意欲的に取り組める授業となる

- 45分間集中して学ぶ小1、発言回数70回を超える小3の姿

通常学級における特別支援教育が進められるために～A小・山郷小の共通項～

特別支援教育コーディネーターが機能している

校内委員会が機能している

個別の指導計画の作成 & 機能している

何故、障害理解が大切なのか

～奈良の少年事件から(草薙厚子著;「僕はパパを」)～

- 少年は精神鑑定で「広汎性発達障害」を指摘されている。
- 広汎性発達障害の人は、言葉の意味をそのまま受け取ってしまうことがある。

障害が問題や事件を起こすのではなく、周囲の理解・対応の不十分さが問題や事件の呼び水になりやすい

5

個別支援を考える

～障害を理解する～

うまく指導してもらえなくてもいい。でも、子どものことは理解してほしい(ある保護者の声)

広汎性発達障害の児童に出会わないことなどあり得ないので、全ての教師は最低限の知識を身につけてほしい(2003・杉山)



自閉症者の自伝がそのヒントになる

テンブル・グランディン、ドナ・ウィリアムズ

6

参考資料

発達障害者支援法 (2005年4月施行)

□ 支援法における**発達障害定義**

自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害をいう。

これまで教育や福祉の支援対象となっていなかったものに対し、国、地方公共団体の支援責務を明らかにした。また、学校教育における支援、福祉増進を目的とするため、対象はやや**狭義**になっている。

7

参考資料

発達障害とは;特徴及び主な障害

- 先天的
- 症状が発達期(乳幼児期に多い)に出現
- 生涯に渡る

基本的には、脳の機能的な問題が原因とされる

精神遅滞; 認知の側面

脳性麻痺、筋ジストロフィーなど; 運動の側面

発達性協調運動障害; 手先の細かな動きの側面

LD、ADHD、高機能PDD

通常学級で彼ら自身「困っている子どもたち」

参考資料

(軽度)発達障害の子どもたち

LD・ADHD・高機能自閉症等の発達障害のある子どもたちが小・中学校の通常学級には6.3%在籍する

知的遅れがない IQ70以上

「軽度」と言われた所以

特異な困難を示す

どういふ子ども?

9

参考資料

LD (学習障害)

聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する、の中で、特異な困難がある <教育的LD> disabilities = 困難さ

言語性LD; 言語理解、表出、読み、書きの困難
非言語性LD; 空間、身体像、社会的知覚の困難

チェックポイント~スキップ、フォークダンス、縄跳びの困難

読み・書き・計算の障害 <医学的LD> disorders = 機能不全

ディスレクシア

10

参考資料

ADHD (注意欠陥 / 多動性障害)

「不注意」、「多動性」、「衝動性」の三つの問題が見られる**セルフコントロールの発達障害**

前頭葉の活動が不活発 (ドーパミンなどの神経伝達物質の量、働き!?)

実行機能障害、ワーキングメモリーの障害とも言われる

教室で、特に気になる子ども

活性化作用のある刺激剤 **メチルフェニデート**

リタリン コンサータ(日本初の治療薬)

参考資料

PDD (広汎性発達障害)

- ・三つ組(社会性、コミュニケーション、想像力)の障害を有する
- ・「自閉症スペクトラム」と同義
- ・以下の5つのPDDがある

- ・自閉性障害 (*この中で知的な遅れを伴わないものを、「高機能自閉症」という)
- ・レット障害
- ・小児期崩壊性障害
- ・アスペルガー障害
- ・特定不能PDD (*非定型自閉症と同義)

上記の中で、高機能自閉症、アスペルガー障害、知的な遅れを伴わない非定型自閉症を「高機能PDD」という

12

対象児童生徒への基本的な支援 ～自尊感情&ソーシャルスキルを育む～

日常的な注意,叱責により自尊感情低下(2次障害)。
「褒める、勇気づける、認める」ことで2次障害を防ぐ

どうせ、私は何を やってもダメなんだ

そんなことは ないよ

教師の腕の見せどころ

未・誤学習のソーシャルスキルを教える・修正する (特にADHD, PDD)

自尊感情を育む～2次障害のブロック～

毎日10回言葉をかける。大人からの言葉かけは愛されている証。愛されれば、子どもは非行から遠ざかる(by夜回り先生)

1. いいと探し;「いいところ、すごいところは だね」
2. リフレーミング;「短所は飽きっぽいところ」「それは という長所でもあるよ」
3. 勇気づけ;「ありがとう」、「うれしい」、「助かった」

失敗しても自尊心、所属感を失わない態度

実は、同僚・保護者も元気になる魔法の言葉かけ

参考資料

LDへの基本対応

例; 読みの困難がある場合

- ・教科書を120%に拡大する
- ・文章の文節ごとに区切りをつける
- ・本人に文節ごとに で囲ませる

ゆっくり、正しく読めるようになった

教科支援の基本; 該当学年より2～3学年下げた内容を!

参考資料

ADHDへの基本対応

脳の実行機能に弱さがあるため、自らの動機付けが困難故に、報酬(ご褒美)で行動をコントロールすることが基本

改善目標を一つ決め、達成したらシールやスタンプの報酬等

「パソコン」というリソースで別人のように変わったA児

主な配慮事項

- ・注意や叱責の何倍もの賞讃を
- ・できていること、できそうなことを賞讃する
- ・賞讃、叱責は直後に明確に
- ・指示は必ず復唱させる
- ・クールダウンの場を設ける 等

A児への支援例～やくそくカード

パソコンが大好きで、得意なA児

シールが5枚たまったら、パソコン15分チケットをもらえる

やくそく名前

- ・朝の歌をみんなと一緒に歌います (シール1枚)
- ・集会に本をもたずに参加します (シール2枚)
- ・教室でみんなと一緒に勉強します (シール2枚)
- ・放送室で先生と一緒に勉強します (シール1枚)

等

がんばり表

12月5日～12月9日

	月	火	水	木	金
1	国語	国語	算数	国語	算数
2	理科	理科	国語	算数	算数
3	算数	体育	国語	道徳	国語
4	国語	算数	理科	理科	国語
5	社会	国語	体育	国語	国語
6	国語	国語	国語	国語	国語

シールをもらおうぞ!


A児の自作カード&パスポート

保健室に行きます

職員室に行きます

パスポート

みるくしょう
4年生 男
たんじょう日 月 日



参考資料

PDDへの基本対応

一度に一つ

視覚的な工夫

肯定的表現

予定の伝達

文化に寄り添う


支援事例

本で教えるソーシャルスキル

周囲の児童の行動変容があり、
気になる児童(小4)の暴言も改善

ロン・クラーク著
「みんなのためのルールブック」

人付き合いのコツがイラストを通して楽しく学べる。



支援事例

NHKプロフェッショナルより

～自閉症支援・服巻智子～

プロフェッショナルの道具; 白いメモ帳

服巻が必ず鞆に忍ばせているのが、真っ白なメモ帳。
相談内容を聞き取ってイラストにし事実関係を整理する。そしてどうしたら良かったのかを書き添えて、メモを渡す。自閉症の人たちは視覚的な理解・記憶が得意なため、書いて伝えることが大事だという(2007.10.30放送)

学級集団における支援を考える

～周囲の児童生徒と共に育てる～

ADHDの疑いのある小4男児。
暴言等による他児とのトラブルが頻発

↓

<1年間の指導を終えた担任の声>
学級全体に対するソーシャルスキルトレーニング等により、**周りの子どもを育てたら、対象児童とのトラブルが減った。**

参考: 親野智可等先生の「ハンカチの話」

担任一人に対応が可能かを確認

～釧路市立愛国小学校の実践(河村・高島)～

学習	1次	C - 1	B - 1	A
2次	E - 1	D	B - 2	
3次	F	E - 2	C - 2	
		3次	2次	1次
				生活

上記の「支援レベル早見表」やQ-U調査を活用し、対象児童生徒の実態を共通確認

参考資料

子どもの必要とする支援レベル(石隈)

1次支援 → 一斉指導に自ら参加できる子ども

2次支援 → 一斉指導に参加するには教師のさりげない配慮と支援が必要な子ども

3次支援 → 一斉指導に参加するには個別の特別な支援が必要な子ども

25

担任一人で対応する際のポイント

個別支援の配慮(諸準備等)はするが、深入りしない

40人の子どもと大きな道を歩く

脇道にそれる子どももいる

立ち止まるが、脇道には入らない

いつでも戻れる居場所の確保

「それ方」の程度により校内体制(支援員等)が必要

周りの子を育てたら、気になる子も育った!

一斉指導における個別支援の配慮(諸準備等)例

学習面 ・学習レベルに合わせたプリント準備(2,3学年下げた内容等)

行動面 ・時々、立ち歩く程度は目をつむる
・学習、対人ルールを掲示する(ルール違反の時には非言語メッセージを送る)

対象児を馬鹿にする、えこひいきと反発する場合もあるため、学習や行動の「練習」であること等、他児への説明は必要。また、後の対象児保護者トラブルを防ぐため、保護者面談も必要。

「やや深入り」せざるを得ない場合の他児への課題も準備しておく

気になる子の在籍学級で使いたい主なカウンセリング理論・技法

ユーメッセージよりも、「対決アイメッセージ」

「リソース探し」、「例外探し」の徹底

意図的な「モデリング」

構成的グループエンカウンター & ソーシャルスキルトレーニング

*留意 PDDにアイメッセージ効果は???

気になる子の理解・支援に使える ~ブリーフセラピーの「例外探し」~

うまくやっていること(例外)はきっとある!

離席が多い(問題) → 音楽の時間は着席(例外)

例外の責任追及
なぜ、例外が起きたのかを心に貯めておく

29

まとめ

~通常学級における特別支援教育が進められるために必要なこと~

- 対象児童生徒の障害理解 研修を
- 担任が一人に対応できるかどうかを共通確認する校内体制 体制づくりを
- 学級が全ての児童生徒にとって満足する場所になっている 学級づくりを
- お互いに「助けて」と言える校内の雰囲気がある 職場内コミュニケーション促進を

管理職、担任、特別支援教育コーディネーター等、それぞれの腕の見せどころ

参考文献

- 発達障害の子どもたち、杉山登志郎、講談社
 - 特別支援教育のための精神・神経医学、杉山登志郎・原仁、学研
 - 特別支援教育基本用語100、上野一彦・緒方明子・柘植雅義・松村茂治、明治図書
 - 特別支援教育を進める学校システム、河村茂雄・高島昌之、図書文化
 - 気になる子への対応術、会沢信彦、曾山和彦、教育開発研究所
-